

# 令和5年度「政治・経済」シラバス

【単位数：2単位 履修年次：2年次（B選）】

## 1. 学習の到達目標

学習の到達目標	社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
使用教科書 副教材等	高等学校 『政治・経済』（第一学習社）

## 2. 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画など

学期	月	学習内容	学習のねらい
前期	4	オリエンテーション 第1節 ・日本国憲法と現代政治のあり方 ・政治と法の機能 ・法の支配と立憲政治 ・基本的人権の保障と日本国憲法 ・現代社会における新しい人権 ・権利と義務の関係 ・議会制民主主義と世界の政治体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の方法や評価の仕方を理解する。</li> <li>・政治の意義について考え、我々がどのような政治参加ができるかを考えさせ、主権者として行動できるようになる。</li> <li>・権利と義務の関係性を理解し、18歳成人としての立ち居振る舞い等を考える。</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会の組織と立法</li> <li>・内閣の機構と行政</li> <li>・裁判所の機能と司法制度</li> <li>・現代政治のあり方</li> </ul>	
	6	第2節望ましい政治のあり方と主権者としての政治のあり方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・①地方自治制度と住民の権利</li> <li>・②政党政治と選挙</li> <li>・主権者としての政治参加のあり方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治の制度はどのようなものかを理解する。地方自治は民主主義の学校の例を理解し、主権者としての責務をもつ。</li> </ul>
	7	第3節市場経済の機能と限界 <ul style="list-style-type: none"> <li>①経済活動と市場</li> <li>②経済主体と経済循環</li> <li>③国民経済の大きさと経済成長</li> <li>④物価と景気変動</li> <li>⑤市場の失敗と公害・消費者問題</li> </ul>	

	7	外部不経済の内部化の方法  第4節 持続可能な財政及び租税のあり方 ① 財政のしくみと租税しくみと租税の意義 持続可能な財政を実現するための税制のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財政はなぜ、赤字になるのだろうか？ → 実例を通して、考察する。</li> <li>・ 持続可能な税制とは？それが難しいことを理解し、我々が政治家を選ぶ際も考えるようにしよう。</li> </ul>
	9	第5節 金融を通じた経済活動の活性化 ① 金融のしくみとはたらき 資金の流れと企業における資金調達 のあり方 第6節 経済活動と福祉の向上 ① 日本経済の変化と中小企業・農業問題  前期のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融ってなんだろう？金融って必要？資金調達はどこからがいいの？将来、自身が個人で、法人での資金調達法に役立つ知識を身につける。</li> <li>・ 日本経済の二重構造って何だろうか。自身が経営者だったら、どのような方策をとるかかんがえる。</li> </ul> <p>前期の学習を振り返る。</p>
【課題・提出物等】			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業プリントの記述問題、授業プリントの提出</li> <li>2 必要に応じて課題を提出させる場合もある。</li> </ol>			
【前期の評価方法】			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業への参加意欲や態度、グループ討議への参加・授業プリント内の記述問題の記入・定期考査等で総合的に評価する。</li> </ol>			
後期	10	② 労使関係と労働問題 ③ 社会保障と福祉のあり方 格差の理由とその対策 第2章 現代日本の諸課題の探究 ① 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 ③ 多様な働き方・生き方を可能にする社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労使関係はどうなっているの？ 社会保障と福祉は私たちにどのように関わっているのかを理解する。</li> <li>・ 少子高齢社会では、今後どのような社会になるのかを理解し、その支えてとしての責務を考える。</li> </ul>
	11	④ 産業構造の変化と起業 ⑤ 歳入・歳出両面での財政健全化 ⑥ 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現 ⑦ 防災と安全・安心な社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業構造の変化とは、農業とサービス業はどちらが多いか？財政の健全化って可能だろうか。我々の社会にどのような影響があるかを含め考える。</li> </ul>

後 期	12	<p>第2編</p> <p>第1節国際法の果たす役割</p> <p>①国際社会の変遷</p> <p>②国際法の意義</p> <p>③国際機構の役割</p> <p>④国際紛争と軍縮への取り組み</p> <p>国際法の役割と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会と国際法、紛争等について、現代社会で起こっている事例を考察しながら、どうあるべきかを考える。</li> <li>・国際社会、国家間の行動原理は何だろうかをふまえ考える。</li> </ul>
	1	<p>第2節国際平和人類の福祉に関与する日本の役割</p> <p>①日本の安全保障と国際貢献</p> <p>日本の国際貢献のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の安全保障はどのようになりたっているの？アメリカとの関係性、諸外国との関係性等も含め考察する。</li> </ul>
	2	<p>第3節相互依存関係が深まる国際経済の特質</p> <p>①貿易の現状と意義</p> <p>②国民経済と国際収支</p> <p>③為替相場の変動</p> <p>④国際協調と国際経済機関の役割</p> <p>国際経済の現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会での相互依存の必要性、その際、自国と他国との貿易があって成り立つことを理解し、国家間の関係で、貿易や国際経済にも影響を与えることを理解する。</li> </ul>
	3	<p>第4節国際経済において求められる日本の役割</p> <p>①国際経済における日本の地位と国際協力</p> <p>国際経済の安定と成長に向けた日本の役割</p> <p>第2章国際社会の諸課題の探究</p> <p>①グローバル化にともなう人々の生活や社会の変容</p> <p>②地球環境と資源・エネルギー問題</p> <p>③国際経済格差の是正と国際協力</p> <p>④イノベーションと成長市場</p> <p>⑤人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取り組み</p> <p>⑥持続可能な国際社会づくり</p> <p>後期まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・G7って何だろう、日本はその一員だが、なぜこのようなグループができているのだろうか。国際経済の安定のため、日本は何をすべきかを理解する。</li> <li>・グローバル化によって社会は発展したが、そのせいでマイナス面も現れてきた。その両面を考察しよう。</li> <li>・民族問題、地域紛争はなぜ起こる？起こさないためには、どのような外交、民間交流が必要かを考える。</li> </ul>
【課題・提出物等】			後期の学習を振り返る
1 授業プリントの記述問題、授業プリントの提出			

2 必要に応じて課題を提出させる場合もある。

【後期の評価方法】

1 授業への参加意欲や態度、グループ討議への参加・授業プリント内の記述問題の記入・定期考査等で総合的に評価する。

(2) 評価の観点

	評価の観点および内容	評価方法
知識及び技能	社会のあり方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理念などについて理解するとともに、諸資料から社会のあり方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	・授業での態度 ・グループ討議への参加 ・授業プリント記述 ・定期考査
思考力、判断力、表現力等	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。	・授業での態度 ・グループ討議への参加 ・授業プリント記述 ・定期考査
学びに向かう力、人間性等	よりより社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。	・授業での態度 ・グループ討議への参加 ・授業プリント記述 ・定期考査